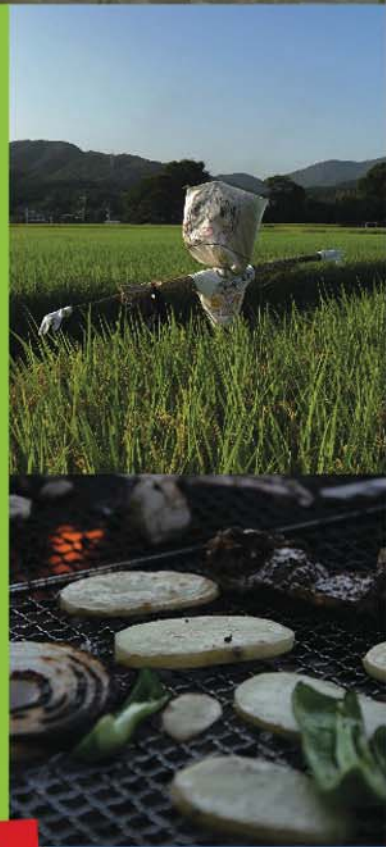


事業名：農林水産省 平成20年度につぼん食育推進事業「教育ファーム推進事業」
事業実施主体：(社)農山漁村文化協会



高槻 わくわく ファーム 2008

活動報告書



人のつながり、食のつながり、

伝えたい「ありがとう」の気持ち。



「高槻わくわくファーム」のコンセプト

【教育ファーム実証のヒント】

■自然とふれあうきっかけ作り

昔は当たり前だった、自然とふれあうことが少なくなり、外で遊ぶ子どもたちが少なくなりました。わくわくファームは、子どもたちに日頃経験できない自然体験の場を作り、自然の恵みや摂理を学ぶ機会になればと考えています。

■仲間を大切にすることを学ぶ

テレビ画面と向かい合う「家遊び」から人と人が向かい合う「外遊び」へ…。自然から学ぶことは、学校で教えられることばかりです。また、自然は私たちに、仲間と協力することの大切さや、忍耐力、思いやりの気持ちなどを教えてくれます。わくわくファームは、自然体験を通じ、子どもたちの仲間づくりを支援し「子どもだけの遊び場」を作っています。

■高槻の「食」から「生命(いのち)」を感じる

「食の安心・安全」についての問題が連日報道されており、私たちの「食」への考え方が見直されています。自然の恵みは「水」と「土」。そして、生産者の苦労があって、私たちは食べ物を口にしています。「食」を学ぶことは、食べ物への感謝の気持ちにつながります。わくわくファームは、地元で採れた農作物の生産、収穫や調理(もちつき、そば打ちなど)を通じ、子どもたちに食べることが「生命をいただく」ことだということを伝えていきたいと考えます。

■地域の人、歴史、文化を知り、伝えていく

毎回のプログラムでは地域の専門家や地域の方より全面協力を頂いています。子どもたちにとって日頃経験できないことばかりです。大人と交流する機会が減り、地域への理解が低くなりつつある今、高槻の自然、歴史や文化を見つめ直し、子どもたちへ残し伝えていくことが必要です。わくわくファームは、自然体験を通じ、地元の人から日本人がなくてはならない心、文化、人の営みや苦労を、子どもたちが身をもって学習する機会を提供したいと考えています。

子どもたちによる、

水と土の冒険が始まります。

教育ファームとは？

自然の恩恵や食に関わる人々の様々な活動への理解を深めること等を目的として、一連の農作業等の体験の機会を提供する取組みをいいます。また、一連の農作業等の体験において、体験者が、実際に農林水産業を営んでいる方の指導を受け、同一作物について2つ以上の作業を年間2日以上期間行う決まりがあります。

「わくわくファーム」最初のステップ。

- 年間プログラムとして募集展開(年間バス会員制)～参加者50名に(当初は30名募集)。
- 高槻市教育委員会より協力を頂き、高槻市内の全小学校(41校、3～6年生児童)への募集チラシ配布。



高槻市小中学校校長会での趣旨説明

募集チラシ



ポイント 教育ファームは「広報」が必要! ポイント

教育ファーム(一般公募型事業)は安定した参加者募集が不可欠です。高槻市教育委員会を通じ地域の小学校へ募集チラシの配布をお願いすることで、当初予定を上回る申し込みを頂きました。また、今回の募集チラシのインパクトや「食の安心・安全」など関心が高く、事業に関する問い合わせも多く寄せられました。チラシに子どもたちの写真を載せることも子どもたちの「クチコミ→一緒に参加!」という意識拡大につながるのではないのでしょうか。※チラシ、HPなどで子どもたちの顔写真掲載は、事前に保護者より承諾を頂いています。

「わくわくファーム」でつくる農作物。

米(ヒノヒカリ)

● 目的

米作りを通じて子どもたちの農業に対する理解を促すとともに、生産の現場から流通、販売までの一連のプロセスを体験する機会を創出することで、食の安心・安全への意識を高める。また、「どぶろく特区」である原地区の酒造りの現場において、米作りから醸造過程までの学習を通じ、地域の伝統・歴史に対する理解を深める。

event.1 / 2008.5.3

もみまき見学&春野菜DEバーベキュー!!

～竹細工DE遊ぼう!&お米を作ろう!～

内容：もみまき見学、バーベキュー、竹細工遊び
ねらい：田植え前の学習、自分たちで米作りをするという意識づけ

【こどもたちの声】

- ★もみまきを初めて見た(小5・女子)
- ★昔は手さぎょうだったのがビックリした(小4・男子)
- ★田植えが楽しみです!(小3・女子)

(教育ファーム推進事業プレイベント)対象外事業



event.2 / 2008.6.1

田植え体験

～みんなで植えよう★ヒノヒカリ!～

内容：田植え、竹ぼっくり作り
ねらい：手植えと機械植えのちがいをみる。

【こどもたちの声】

- ★ぬるぬるしたけど楽しかった(小5・男子)
- ★はじめてでドキドキしたけど楽しかった(小3・女子)
- ★どろどろになったからおもしろかった(小3・男子)
- ★土が足についてきもちわるかった。けどオモロー!(小4・女子)

event.3 / 2008.7.19

田んぼ草取り大会

～原いっぱい★水路探検&川遊び～

内容：牛地蔵の謎を探せ!^{おおいで}(大井田水路の学習)、川遊び
ねらい：草取りの大切さを学び班対抗戦で競い合う。
田畑へ流れる水路の取水口まで歩いていく
(水路の管理人からのお話を聞く)。

【こどもたちの声】

- ★とれないとおもったけどとれておもしろかった(小4・男子)
- ★よごれてきもちよかった(小5・女子)
- ★はいたしゅんかんきもちよかった(小5・男子)
- ★田んぼの土がおもしろかった(小3・男子)

どぶろく酒米の草取りも実施



event.4 / 2008.10.4

稲刈り体験

～原いっぱい★とったどおー!稲刈り&イモ掘り大会!～

内容：稲刈り、焼きイモ作り&田んぼDEドッジボール大会
ねらい：昔ながらの稲刈り(手刈り)を体験し、機械刈りと比べる

【こどもたちの声】

- ★はじめての稲刈りおもしろかった(小3・女子)
- ★稲はくくるのがむずかしかった(小3・男子)
- ★めいろをつくった!(小4・男子)
- ★いろんな生き物がいた(小5・女子)

大阪農政事務所視察

event.5 / 2008.11.9

販売体験/わくわく子ども昼市

～まちナカへ行こう★原いっぱい収穫祭!～

内容：秋野菜の収穫&子ども昼市(農作物の販売体験)
ねらい：収穫した「お米」の販売を实践し、生産から販売までのプロセスを理解する。

【こどもたちの声】

- ★声をだしすぎてのどがいたくなった(小5・女子)
- ★人にチラシわたすのをがんばった!(小4・男子)
- ★お米がたくさんうれた(小3・男子)
- ★全部売れてよかった(小5・女子)

協力:たかつき中通り本通り商店街振興会



ほ場提供場所:高槻市原地区の風景。

「わくわくファーム」でつくる農作物。

そば

● 目的

そばの育成を題材とした農業体験に加え、収穫、調理(そば打ち)といった食育に関連するプログラムを実施することで、地産地消の重要性について学習するとともに、里山の自然や歴史への理解や、地域に対する愛着心の向上を図る。



event.1 / 2008.8.23

そばの種まき体験

～「たかつき里山合宿」プログラム～

内容：そばの種まき

ねらい：そばはどうやって作られているのかを知る。

【こどもたちの声】

- ★雨がふったけどたねがよくうまった(小6・男子)
- ★おいしいそばができてほしい(小5・男子)
- ★雨がふってたいへんだった(小3・女子)

大阪農政事務所視察

event.2 / 2008.9.7

間引き&土寄せ体験

内容：そばの間引きと土寄せ(採った芽は持ち帰って食べました)

ねらい：そばの生長観察と土にふれあう機会をつくる

【こどもたちの声】

- ★家で食べたらおいしかった!(小5・女子)
- ★いっぱいとれた(小3・男子)
- ★間引きはたいへんだった(小4・女子)

event.3 / 2008.9.21

そば畑の見学(花の観察)

内容：そば畑の見学(雨天中止)、かかし作り

ねらい：「かかし」を作り収穫期前の準備をする(かかしコンテストも実施)

【こどもたちの声】

- ★むずかしかった(小3・男子)
- ★むずかしかったけどとてもたのしくて、なんかも作りたかった(小3・女子)
- ★首が長くなったができてよかった(小4・女子)
- ★かかしコンテストがおもしろかった(小5・男子)

高槻市石井克尚副市長見学

event.4 / 2008.10.26

そば収穫&マスつかみ大会

～秋本番!とって食べよう川魚～

内容：そばの収穫、マスつかみ、青空デッサン大会

ねらい：そばの実の花からできていることを学ぶ

【こどもたちの声】

- ★稲刈りとおなじようにワラでしばった(小4・男子)
- ★いっぱい収穫した!(小3・女子)
- ★はやくそばをたべたい!(小3・男子)



event.5 / 2008.11.15

そば脱穀体験

内容：そばの脱穀体験

ねらい：収穫時に干した「そば」の脱穀作業を体験する



event.6 / 2008.12.13

そば打ち見学

～そば試食～

内容：「わくわくそば」の試食会、しめ縄作り、作文教室

ねらい：収穫したそばを試食する

【こどもたちの声】

- ★おいしかった(小3・女子)
- ★がんばって収穫したからよかった(小4・男子)
- ★またやってみたい(小5・女子)



高槻市原地区の風景(原公民館)。



高槻型「わくわくファーム」の取組み。

「高槻わくわくファーム」独自の取組み。

event.1 / 2008.7.19

田んぼ草取り大会

7月に開催した「田んぼ草取り大会」は、つらい農作業となりがちな「草取り」を子どもたちが楽しめるゲーム要素(班対抗戦)として実施(一人ひとりに「ビニール袋」を持たせる)。スタート前に「この田んぼの草取りをして、みんなでおいしいお米を食べよう!(畑中さん挨拶より)」という目的意識を与えることで、子どもたちの意欲が飛躍的に上がりました。田んぼのヌルヌル感に戸惑いながらも、子どもたちの声は悲鳴から歓声に変わっていきました。

【こどもたちの声】

- ★温泉気分だった。
- ★雑草を20本とった!ふくらパンパン!
- ★イネと草が似てて大変やった。
- ★入った瞬間気持ちよかった。



●教育ファームは水と土にふれあう

「土の感触」を体感した子どもたちは少したくましくなった!以後、子どもたちの田畑に対する思いが変わってきました。汚れることへの抵抗が少なくなり、少々の雨でも畑作業に取り組む姿。「ボクたちの田畑」という感覚が生まれてきました。また、活動の拠点となっている原地区を「懐かしい」という子どもたちが増えてきました。里山の風景が、子どもたちに身近な存在として印象付けているのではないかと思います。

event.2 / 2008.11.9

販売体験/わくわく子ども昼市

～まちナカへ行こう★原いっばい収穫祭!～

11月に開催した子ども昼市は秋野菜を収穫し、子どもたちが育てた「お米」などを販売。実は、8月の合宿で宿泊先の「原公民館」で朝市を実施しました。その時の「お客様」は家族、知り合いなどの「身内」。今回は、高槻の中心市街地(まちナカ)にある商店街(たかつき中通り本通り商店街振興会協力)で昼市を実施。前回と同じく、原地区の皆さんの協力により野菜などを提供頂きました。

【当日の流れ】

1. 販売部門決め
2. 作戦会議(いくらでうるか?)
3. ポスター・値札作り(試食を作る班も)
4. 仕分け
5. 現地での準備
6. ピラまき作戦(500枚以上を配布)
7. 販売開始
(マイクを持って呼び込みする子もでてきました!)
8. 販売終了・精算・後片付け



●商売人になった子どもたち

「子ども昼市」準備時に、「前回(夏休み合宿)は知ってる人に売ったけど、今回は道行くたくさんの人に売ることになるよ!」「この商品を全部売るのはみんなにかかっているよ!」と子どもたちに投げかけてみました。すると、子どもたちは「どうすれば売れるか?」考え始めました。想定していた試食はコメとサツマイモ。しかし、ダイコン・かぼちゃ班からは、「煮物を作りたいから鍋が欲しい!」と要求。おつりも「なんで5円10円玉がないの?」と抗議を受けてしまいました。現地では、道行く知らない人にチラシを渡したり、大きな声を出して呼び込みをしたりする子など「商売人」さながら。子どもたちが「自分たちで育てたものを売る」という意識、「やらされている感」が全くないのです。また、商売の難しさも体験しており、売れた時の達成感は大きな喜びにつながりました。実体験の販売が子どもたちのやる気と楽しさをふくらませたのかも知れません。

販売体験時に使用した「野菜の価格調査」と「売上げ伝票」のサンプル。

ホット隊長からの指令!!「わくわく子ども昼市★野菜の値段を調査せよ」			
調査員氏名	調査した日	調査したお店	
野菜の名前	生産地(どこから来たの?)	値段(いくつでいくらか?)	ここがイチ押し!!
サツマイモ		いくつ? いくら?	
ダイコン		円	
ジャガイモ		円	
お米		円	
オススメ野菜は?		円	
		円	

11月8日(土)と9日(日)に持ってきてね!!

わくわく子ども昼市(2008/11/09) ～街ナカへ行こう★原いっばい収穫祭!～			
リーダー			
部門名			
部長(班長)			
販売開始時	販売する野菜の果物名	販売価格	
	商品数		
販売終了時	残り数(①)	円	
	残っている商品数	お金の合計(②)	売上額(②-①)
		円	円

宿泊型自然&農業体験プログラムの実施

原地区(里山)の自然や歴史への理解や地域に対する愛着心、子どもたちの興味関心を引き立たせる。

event.1 / 2008.8.22～8.24

たかつき里山合宿

内容: 朝市体験、夏山探検、きもだめし、流しそうめん体験、アユつかみ大会など



event.2 / 2008.9.20～9.21

わくわく英語DEキャンプ

内容: 飯ごうすいさん(高槻とかいなかカレー)、そばの花観察、かかし作り

共催: (財)高槻市都市交流協会



ポイント 教育ファームは楽しくなければアカン! ポイント

都市部にありながら森林、河川、田畑といった自然を構成する要素が全て揃う「原地区」の立地特性を活かし、川遊びや山歩きなど四季を通じた様々な自然体験プログラムと連動した農業体験プログラムを実施しました。特に、2泊3日の「たかつき里山合宿」は、原公民館(高槻市立清水小学校旧分校跡)に宿泊、みんなで協力する共同生活(班で食事を作る、そうじ、布団の上げ下げ)を通じて仲間が作られていきました。

↓
子どもたちが成長した。そして、原地区を好きになっていく。

↓
子どもたちの「夏の思い出」に。

また、異なる地域や年齢の子どもたちが「仲間」を作り、野外活動のノウハウを上級生から下級生へ教え伝えることによって、上級生自らもさらに成長し、自主性の向上を図ることをねらいとしています。

成長していく子どもたち。

子どもたちの作文から(原文のまま)

わくわく探検隊にはじめて行ったときぜんぜん友だちがいなくてだれにもしゃべられなかったけど、だんだんなれてきて友だちもふえていきました。いまは知らない人(探検隊の中で)にも声をかけたりしています。

2008年のわくわく探検隊で一番おもしろかったのは夏休みの2はく3かのがっしゅくです。3日間みんなとすごせてとても楽しかったです。2日目のよるはおんせんに行っておはんを食べたことが楽しかったです。3日目は山登りをしてくたかたでした。そして原のお米もおもしろかったです。

ぼくはわくわく探検隊にさんかしてよかったなーと思いました。また参加したいです。

(小3・男子)

わくわくたんけんたいは、いろんな事があって楽しいです。原公民館でとまったよるは、かみなりがなってるさかった(>_<)

青少年第二キャンプ場の時は、雨がふって、みんなでくみたてたテントがこわれちゃった(T_T)

朝市をした時は、かぼちゃを売った。いっぱい人がきてた。お母さんも、かぼちゃを買ってくれた(*^_^*)

ますつかみをした時は、つかめはしなかったけど、さわれた。ぬるぬるしてた。

川遊びの時は、水がキレイだった(*^_^*)

でも、つめたかったから見てた。

かにがいたので、舟にのせてうかばせた。楽しかった。

(小3・女子)

アユ・マスつかみが楽しかった
ぬるぬるしてたからおもしろかった

きもだめしがたのしかった
ぜんぜんこわくなかった所がたのしかった
もう一度やってみたい

カレーがおいしかった
ふたをあけるときがあつかった

ぼんぼん山の川であそんだときがおもしろかった
けどつかれた

えいごでキャンプがおもしろかった
キャンプファイヤーがおもしろかった
キャンプファイヤーがあつかった

(小3・男子)

「こどもロハス」

こどもができるスローライフ。
こどもができるエコ活動。
こどもじゃないとできないこと、
ここにはたくさんあります。
こどもロハスな生活はじめてみませんか？

ポイント 教育ファームは子どもたちを成長させるポイント

毎回調査した子どもアンケートや宿題絵日記シートなどからは、「五感」を使った表現が豊富になってきました。また、活動を通じて、他校区から集まった子どもたちの集団意識が高まり、イベント以外の作業日(草取りや収穫作業)にも参加するようになりました。原地区全体のクリーンキャンペーンへも参加し、地元老人会の皆さんと水路の清掃を通じた交流を深めたり、地域の伝統を学習する一環として「とんど焼き」のお手伝いをして豊作を願ったりしました。

」のススめ。

親からみた「わくわくファーム」

家庭での変化～保護者アンケートより(抜粋)～

「わくわくファーム」に参加して
お子様が変わった点などは？

お友達ができて活発になりました。

友人と一緒になくても、学校外のイベントに参加するようになりました。

食事を作ることに興味を持つようになりました。

野菜の産地などを気にするようになり、
どうやって生えているかなど話題にするようになりました。

さわれなかった虫をさわれるようになりました。

住んでいる高槻に興味を持ち、色々なことを知りたい、知ろうとする姿勢が見られるようになった。

体が丈夫になってきたように思います。地域のスポーツ団などに所属していないので、このような取り組みがあって嬉しいです。

持ち物の用意など、自分でできるようになりました。

「食の安心・安全」「食育」など、
ご家庭で気をつけられている
ことがありますか？

祖父母が近くの体験農場で野菜を作らせてもらうようになり、
頂いて食べるようになりました。

男の子でも自炊は必須と考えています。
時々おかずを作ってもらっています。

手作りを心がけています。

食べられることは作ってくださる方が
いらっしゃるという点を大切にしています。

国産を選んでいきます。

「ひじについて食べない」、「左手を食器に添えて」ということは
しつこく指導しています。

食事内容のバランス、肉魚には必ず
野菜を添える事を心がけています。

一年間の活動を通して。

ポイント 教育ファームは農業のプロから学ぶ ポイント

ほ場を提供頂いた畑中喜代司さん(畑中農園)は、「都市と農村をつなぐ」をコンセプトに「原いっばい(どぶろく特区)」の製造や原地区の村づくりを進める研究会を立ち上げるなど様々な活動を展開されています。畑中さんは、「原地区の環境を子どもたちに残し伝えていきたい」との思いがあり、「わくわくファーム」受け入れにつながりました。年間計画を組み、取り組みごとの綿密な打ち合わせ、改善点を考えながら負担のかからないプログラムを実施しました。「わくわくファーム」の取り組みは畑中さんをはじめとする原地区の皆さんにもご協力を頂いています。教育ファームは、子ども会などの収穫体験(イモ掘りなど)とは違い、子どもたちに農業の大切さを教えたい「プロの農家」を先生として、子どもたちへご指導頂いています。



畑の提供だけでなく、事業全体のアドバイスを頂いている畑中農園の畑中さん。

「高槻わくわくファーム」の取り組みを、平成21年2月
近畿農政局大阪農政事務所主催「子どもの食を考える
食育実践者向け勉強会inおおさか」で発表しました。

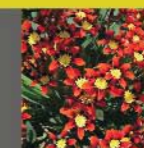


今後の取り組みと課題

- ・ほ場である原地区からの情報発信や地元との交流をより深めていく。
- ・里山の環境保全活動、林業(木こり)体験、祭礼(蛇まつりへの参加)や寺社(神峯山寺の座禅体験)の歴史発見などの新たな要素を加えることで、総合的な自然体験・農業体験プログラムの「集大成」化を目指し、事業継続を図っていきたい。
- ・原地区が、子どもたちにとっての「心のふるさと」となるべく、魅力あふれる里山の歴史と文化に触れあってきたい。
- ・事業を継続していくための参加者負担を含めた運営資金の確保と、これまでご協力頂いている地域団体とのネットワーク・連携を深めていく。

●アンケート結果から…

当初、子どもたちのほとんどが「親に勧められての参加」でした。回数を重ねるごとに、子どもたちの様子も変わってきています。教育ファームは、子どもたちのコミュニケーションを深める集団作りの場、「食」に興味を持たせる場、自然や郷土に愛着を持つ場などとして有効であることが考えられます。また、保護者の意識としては日頃から「食の安心・安全」に関心がある割合が高いことが伺えます。



「高槻わくわくファーム」誕生までの経緯。

2003年11月に設立したNPO法人アダージョ（高槻市青少年教育団体）は、それまで不登校生のサポート（訪問指導）を主として活動していました。

2006

その功績が認められ「第11回ライオンズクラブ高槻基金」の顕彰団体に選定。

活動の一環として青少年のイベント「英語 DE キャンプ 2006（高槻市協働活性化モデル事業）」を開催。

「高槻市景観ワークショップ」に参加し、「たかつきの里山・原地区」のフィールドワークを実施。そこで都市農業の振興と遊休地の解消を目指している畑中さん（畑中農園）と出会う。

フィールドワークを実施して制作したマップ

2007

畑中さんもアダージョと同じく「子どもに里山の景観と環境を残していきたい」という思いがあり、「摂津峡・芥川わくわく探検隊」開催へのきっかけとなりました。

2007年活動報告書

2008

4月、農林水産省「教育ファーム推進事業」へ申請。「モデル実証地区協力団体」として採択。
*事業実施主体：(社)農山漁村文化協会

原地区を拠点とした自然体験&農業体験プログラム「高槻わくわくファーム2008」を展開。地域の皆さんよりご協力を頂き、地元CATVをはじめ様々なメディアに取り上げられました。

読売新聞 (08.8.10)

産経新聞 (08.8.27)

(福)大阪府社会福祉協議会広報誌「ボランティア OSAKA」 (09.2)

「食べるだけ」から、
「作ることから
始めたい」へ。

子どもたちのワクワク、キラキラした一年が終わります。
ここまで子どもたちが成長するとは考えていませんでした。

「農業に興味を持つ子」、「田畑の生き物を観察する子」、「川で飛び込みをする子」

昔では当たり前だったことが、子どもたちにとって「珍しい」ことであり、
「新しい感覚」となっています。

そして、この恵まれたフィールドが高槻に残っていること
私たちは先人から受け継いだ自然や文化、伝統を伝えていかねばなりません。

子どもたちの冒険はまだまだはじまったばかり。
これからも「食のつながり、人のつながり」を伝えていこうと思います。

みんな、ありがとう。

(ホット隊長より)

高槻わくわくファーム2008

【お世話になったみなさん】*順不同/敬称略

高宮智仁 平高聡士 山本悠太 浜谷洋平 浜谷厚史 川村吉弘 山口和子 木野村泰子 木野村温子 榊真由美 千田紗知奈 芝田美由紀 伊藤有美
三王祥揮 林祐介 阪上良太 西岡親平 松原拓司 常岡洋人 高瀬大輝 平田祐輔 明里信宏 松尾治成 高橋潤 大成徹 上田武 西勇二郎
玉井聖幹 園池涼一 川野和久 上林義征 岩崎卓宏 豊田由利 保田佳都子 平井友美 小柳智美 杉立伸夫 高嵩きよみ 桑山佳与 新田美幸
石井克尚 山本政行 石下誠造 松政恒夫 宮田隆 梅本定雄 竹下守雄 平田太 左海英和 北野豊 藤井敏温 小林正光 前地利治 平尾陽
松久摩耶 小森愛 上平貴昭 達輝雄 金岩正義 田中英夫 中村秀行 上田昌弘 立石博幸 樽井弘三 前田勉 永井恵子 西田隆 山本陽一 関美香
山田政弘 伊佐寛 大山貴司 北川治郎右衛門 山田忠男 藤澤義彦 中村裕一 浅尾芳明 蜂屋基樹 寺谷浩司 勝野美江 中島敏明 小柿正武 森田修
梨木司 橋本享利 井川勝巳 竹中繁治 岡山雅彦 日笠一夫 北川哲 平賀清治 岡田勝男 橋本美智子 古川義美 中川修一 内本繁 小石玖三主
山本慶史 平野哉枝 川口和徳 森田崇之 氏野裕之 西依侑 山下哲也 山下英樹 高橋英夫 小林高 渡辺美広 西辻一真 大矢正彦 宮津昭
柏原泰和 松尾正樹 有川潤 藤本定男 谷口宏 岩谷平行 谷郷博文 谷郷武志 奥正雄 畑中武 畑中秀子 畑中喜代司 近藤真道 林弥司 林敏子
狩野千枝野 大正流水明 西田義男 近藤昌信 佐藤功 杉本真一 原地区のみなさん

【協力企業・団体】*順不同/敬称略

コカ・コーラウエスト株式会社(旧社名:近畿コカ・コーラボトリング株式会社) 株式会社入谷商会 株式会社大一工務店 八木農事 ニュービット 唐崎屋
レストラン錦松鶴 マルコー マルヤス真上店 マックスバリュ高槻南店 高槻森林観光センター 高槻しいたけセンター 高槻里山ネットワーク
NPO法人芥川倶楽部 原公民館 高槻ケーブルネットワーク株式会社 高槻市交通部

【主催】 高槻とかいなか教育ファーム推進協議会

【構成団体】 高槻市農業協同組合 原地区連合自治会 実行組合原連合会 原水利組合協議会 芥川漁業協同組合 原地区環境保全会
大阪府森林組合三島支店 NPO法人森のプラットホーム高槻 たかつき中通り本通り商店街振興会 畑中農園(農業指導)

【連携団体等】 大阪府北部農と緑の総合事務所 高槻市 高槻市教育委員会 高槻商工会議所 社団法人高槻市観光協会 株式会社ヨードクリーン
株式会社マイファーム わくわくストリート21実行委員会

【事務局】 NPO法人アダージョ(高槻市青少年教育団体)

「高槻わくわくファーム2008活動報告書」 2009年(平成21年)2月発行

発行:高槻とかいなか教育ファーム推進協議会 〒569-0065 大阪府高槻市城西町5-3 ☎072-672-5173

発行人:杉本真一 編集人:FastLife(www.fastlife08.com/Top.html)